

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年12月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4075100208
法人名	有限会社 希望の郷
事業所名	グループホーム 希望の郷
所在地 (電話番号)	福岡県遠賀郡岡垣町旭台3丁目5番5号 (電話) 093-281-3360
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年11月24日

## 【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	4人, 非常勤 5人, 常勤換算 4.75人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	木造	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000又は41,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	<u>有</u> ( 50,000円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または一ヶ月当たり 35,000円		

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	5名	要介護2	0名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	76歳	最高	91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠賀中間医師会おんが病院、公園通りクリニック、アイ歯科宗像
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街にある木造平屋建てのホームは、地域に溶け込み、静かな佇まいである。このホームの特徴の一つは、地域との交流が自然に行われているところである。ホーム前の通学路を通る子供たちとの挨拶や、隣近所のお付き合い、地元の人々に「お隣さん」として認知され、事業所は孤立することなく地域の一員となっている。「希望の郷」という名称は、ホームの存在がホームにかかわるすべての人々、利用者、家族、職員、地域の希望でありたいという法人代表の熱い思いから名づけられたものである。「利用者の大事な時期をお預かりしている」という認識を全職員で共有し、「その人らしく暮らし続ける」という理念の実践に取り組まれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価後に「目標達成計画」が作成された。「日常的な外出支援」については、直に実行改善されている。「運営推進会議を活かした取り組み」については、会議の議事録を全家族へ送付することで、ホームの現状、取り組みをより解りやすく報告する取り組みがされている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価への取り組みは、全職員で記入箇所を分担し、その後数回の職員会議を重ね、一つ一つの項目を全職員で読み合わせを行い検討作成されている。今回の評価を通じ、職員の意識合わせ、ケアの振り返りや見直し等、事業所の質の確保に活かす取り組みがされている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者代表、家族代表、民生委員、町役場担当者、法人代表、管理者の参加で2ヵ月毎に開催している。評価の結果報告や改善項目への取り組み状況、ホームの現状・行事報告・計画について話し合い、家族参加のみかん狩りの企画等、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。また、会議の議事録を全家族に送付し、ホームの取り組みを報告している。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 家族等の訪問時には、苦情や意見を職員に気軽に言ってもらえるよう雰囲気作りに努めている。「ご意見箱」が設置されている。家族会があり、運営推進会議でも意見を聞く機会を設けており、出された意見や要望は職員も含め話し合っており、運営に反映させる取り組みをしている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、職員と一緒にゴミ出し当番をしたり、ホーム前を行き交う子供達と挨拶を交わしたり、地域の敬老会や納涼祭りに参加している。また、ホーム主催の夏祭りに隣の方を招いたり地域にしっかり溶け込み、地元の人々に「お隣さん」として認知され、地域の一員として自然な付き合いができています。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者1人ひとりを個人として尊重し、地域に溶け込みその人らしく暮らし続けることを支援します。」という事業所独自の理念のもと、「尊重・感謝・笑顔・希望・家庭的」という目標も掲げ、事業所の目指すサービスのあり方の根本的指針となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝・夕の申し送り時に、理念を唱和することで意識づけが行われている。実践に向け、利用者の能力・生活歴を重視し、個別の支援を心がけ、サービスの提供場面でもケアが理念に反映されたものであるか確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、職員と一緒にゴミ出し当番をしたり、ホーム前を行き交う子供達と挨拶を交わしたり、地域の敬老会や納涼祭りに参加している。また、ホーム主催の夏祭りに近隣の方を招いたり地域にしっかり溶け込み、地元の人々に“お隣さん”として認知され、地域の一員として自然な付き合いができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の改善課題について「目標達成計画」が作成され改善がされていた。全職員が自己評価・外部評価の意義を理解し、自己評価は全職員で検討作成され、職員の意識合わせ、ケアの振り返り等、サービスの質の確保に活かす取り組みがされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、家族代表、民生委員、町役場担当者、施設代表、管理者の参加で2ヵ月毎開催している。評価の結果報告や改善項目への取り組み状況、ホームの現状・行事報告・計画について話し合い、家族参加のみかん狩りの企画等そこでの意見をサービスの向上に活かしている。また、会議の議事録を全家族に送付し、ホームの取り組みを報告している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の担当者とは顔馴染みの関係にあり、評価結果や改善課題の報告、活動内容等について情報提供を継続的に行っている。また、制度についての問い合わせ等も気軽に相談できる関係となっている。ホーム主催の地域交流の行事にも参加してもらい、サービスの質の向上に共に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、受講者による伝達講習を行い、職員全員が制度への理解が深められるようにしている。事業所にパンフレットを備え、必要な利用者・家族へは活用ができるよう支援体制を整えている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行の「希望の郷」通信と領収書のコピーを家族へ郵送し、日頃の暮らしぶりや金銭の報告、職員の異動等について報告している。家族訪問時には個々にあわせた体調報告等や職員異動の報告・挨拶をしている。状態急変時や受診結果については電話にて報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問時には、苦情や意見を職員に気軽に言ってもらえるよう雰囲気作りに努めている。「ご意見箱」が設置されている。家族会があり、運営推進会議でも意見を聞く機会を設けており、出された意見や要望は職員も含め話し合っており、運営に反映させる取り組みをしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者、管理者は常日頃から職員とのコミュニケーションを図る中で、個々の面談や相談に応じ、勤務調整等事業所でも対応できることについては検討し、離職を最小限に抑える努力をしている。やむを得ず離職の場合は引継ぎ期間を設けている。また、新人職員は利用者とのコミュニケーションの時間を多く取れるよう配慮されており、馴染みの関係作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人代表及び管理者は、職員の採用にあたっては、性別、年齢、宗教等を理由に採用対象から排除せず、本人の意欲を重視し採用している。職員は能力の向上のための研修に参加し、自己研鑽の機会が与えられ、生き生きと勤務している。有給休暇も取りやすい体制となっており、社会参加の機会も保障されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表や管理者は内部研修や毎月の職員会議のなかで、利用者の権利と尊厳を重んじることの重要性について触れ、理念の実践に向けて話し合いをしている。特に、新人職員には法人の倫理規定にも触れ、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人代表や管理者は職員育成が不可欠であることを理解しており、段階に応じた研修を受ける機会が確保され、研修報告、伝達講習も行われている。月1回の定期的な内部研修以外にも資格取得を推奨し、勤務調整、資料、費用面の支援をしているが、年間の研修計画がない。	○	なるべく多くの職員が研修を受講できるよう計画をたて、職員の段階に応じた計画的な人材育成の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人代表は同業者との交流・連携の必要性を認識している。管理者は岡垣町介護サービス事業者等連絡会議に参加しており、同業者との交流の機会はあるが、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携を図るまでには至っていない。	○	地域の他の事業所との情報交換や相互訪問、勉強会等の活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みに期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前の自宅訪問や病院訪問で本人とも面談を重ね、馴染みの関係作りを行っている。体験入居や日帰り体験等にも対応している。ホーム見学の折には、現利用者に部屋の案内をしてもらい、部屋でお茶を飲みながら話をしたり、他の利用者や場の雰囲気に徐々に馴染んでいただくような工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	味噌の使い方、洗濯の干し方等暮らしの知恵や昔の生活の様子等、利用者から学ぶことは多い。また、夜勤の時「大変やね。」と労わってもらったり、励まされている。一人の利用者が入院した時に、他の利用者も職員と一緒に千羽鶴を折って届け、退院を共に喜び、家族の一員として共に支えあう関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は一緒に暮らす中で表情や言葉で利用者の希望等を汲み取るように努めている。意思表示ができない方は生活歴・生活習慣を把握し、必要としているニーズに対応するよう努め、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は月に2回のモニタリングを行い、主治医・かかりつけ医の助言を元に本人・家族と話し合い、本人の状態に沿った介護計画を立てている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は月1回の会議で問題点の確認などを行い、利用者の生活状況の変化を見逃さず、現状に即した計画を作成している。見直しは基本的に3ヶ月に1回行っているが、新たな気づきや意見が出された場合は臨機応変に見直しをしている。利用者の変化等はその都度記録に残している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的には家族に理美容・受診の対応をお願いしているが、家族が対応困難な場合は職員が同行している。利用者の外泊・外出の支援を行っている。家族の方や馴染みの方が面会に来られた時は、気軽に談話や体操等に参加してもらえるよう努めたり、入院中の洗濯等の支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞き、かかりつけ医を選んでもらっている。通院は家族対応を基本とし、家族が困難な時は職員が対応している。本人の状態について主治医や看護師との面談等にて情報提供してもらい、その情報は職員、家族で共有している。また、利用者の入退院時は必ず職員も同行している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在ホームに看護師が居ないため、看取りは行っていない。重度化した場合は、可能な限りホームで対応することを家族に説明している。ただし、医学的管理の必要性が高いときは、段階的に家族、医師を含めて話し合いを重ね、入院等の支援をすることを家族に説明し、全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切にするケアを心がけている。日々のケアの中で気づきがあった時は、職員同士でお互いに注意し合える関係ができていく。個人情報事務所の鍵のかかる棚に保管されている。個人情報保護法については職員の学ぶ機会を設け、理解を深める取り組みをしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先することなく、利用者の自己決定を尊重し、無理強いする事なく、一人ひとりのペースを大切に支援している。利用者が1日を通して満足できたかを見極めながら、利用者が楽しく過ごせるようレクリエーションは個別メニューを取り入れ支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一連の流れの中で、利用者の能力に応じて、味見・盛り付け・配膳・後片付け等してもらっている。職員は利用者と同じ席につき、同じものを食べている。食事をより楽しめるよう音楽を流し、明るい雰囲気づくりを行っている。また、メニューは利用者話し合い好みなどを聞き決めていく。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は週3回となっているが、利用者の希望や体調に応じて入浴日以外でも入浴してもらっている。入浴の嫌いな方は言葉かけを工夫したり、時間をおいて入浴を促したりしている。時には利用者と一緒に入浴したりして、入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯や調理等のホーム生活上の役割、カラオケや編み物、書道等の楽しみ、ショッピングや散歩、花見、ドライブ、外食等の気晴らし支援など、利用者個々のニーズや生活歴、能力に応じ、利用者が楽しんで主体的に活動できるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回のショッピング・月1回の外食を行っている。ホームの中だけで過ごさず、天気の良い日には近くの公園に散歩に出かけ、地域の方々とのふれあいを楽しみ、また、地域行事の参加・家族との買い物や外泊等の支援も行い、一人ひとりがその日の希望にそって外出ができるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解おり、夜勤者が一人となる19時から翌朝6時30分までは防犯のため鍵をかけているが、日中は鍵をかけていない。常に所在確認を行い、玄関に2種類のセンサーを設置し、来訪者と外出者の区別が音で解るよう工夫している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回はホームで様々な状況を想定し避難訓練を行っている。また、持ち出し袋を用意し分かる場所に準備している。火災通報装置を設置し、年1回は消防署と消火訓練も行っており、日頃より地域の人々の協力が得られるよう馴染みの関係もできている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの1日の食事量・水分摂取状況等を把握・記録し、状態に気を配っている。体調不良等で食事が出来ない場合はかかりつけ医に栄養剤を処方してもらい、栄養状態が保てるように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るく、清潔さに気配りされ、利用者と職員の共同作業で作ったカレンダーや出窓には花やぬいぐるみ等が飾ってある。玄関には季節の物が置かれ、廊下にもカレンダーや利用者の方々の書道が展示してある。季節感を取り入れ、居心地のよく過ごせるよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には写真や自筆の書道・思い出の品等が飾ってある。また、使い慣れた家具・冷蔵庫等を置き、本人が居心地よく自室にてプライベートの時間を過ごすようにしている。</p>		